

ちよつぷつ話

第一四七号

家門の繁栄

四月には荒天時にも関わらず、油掛地藏尊御縁日法要が無事に厳修出来ました事、皆様のお力添えの賜物と感謝し、御礼申し上げます。六道の基本は七歩にあると思います。皆様と解脱を目指している行事です。人類の始まりから親は我が子の魂を入れる事叶わず。赤ん坊は先祖累代の血脈を受け魂をも受け継いでくるのです。昔から「子宝」と言います様に、子が無ければ先祖に成れないのはもちろん、続いてきた先祖の靈魂も迷うことになりましょう。この娑婆で生活するに当たり自己の責任を取る、取れる人間にならなくてはいけません。家門の繁栄を願うも、家門を潰す事を願う先祖はいないと思います。自己の責任の最大は家門が守れるか否かにあると言っても過言ではありません。親子の「間」、先祖との「間」から始まり、社会生活全てに「間」を保てる事が必須条件になるのです。間が抜け間抜けになつては六道を輪廻するしかありません。万人皆必ず死にます。はたして自分が先祖に成れるか、成れないのかも考える必要があります。そうは言っても、娑婆は修業の場です。自分の思い通りに進む、勧める事は不可能に近いのです。さいわい、当山では如何なる人生を送られましても最終的に供養する事ができる体制を整へ、厳しき中にも安らぎを具えております。仏閣精舎の繁栄が娑婆の安定に繋がると思っています。

禅宗等仏教で重んじられるのが「無心」の習得です。皆さんも対人関係において何となく「間」が悪くギクシャクした経験をされたことがおありでしょう。この自分自身が味わう違和感も「間」の悪さです。又、勝負においても「間」の駆け引きが大事です。時間と言う「空間」、瞬時に変わる状況の変化を上手につかみ取る才能の啓発が勝負を左右します。何事にも落ち着いて、過ちの無い行動が出来るように「心」の鍛錬をし、常に正確な判断が出来なくてはいけません。「心」の鍛錬、即ち、「無心」の修行につながっているのです。一日に使える時間は最大二十四時間で、勿論無駄な時間が少なければ最高ですが、仕事量と疲労感は一一致するものでもなく、誰しもストレスが少しでも蓄積しない様に行動しますが「心」に爽快感があれば肉体の疲労感が少なくてすみます。逆にストレスが積もれば健康に害を及ぼしやすくなります。ここで大切になるのが「心と身体」の「間」の関係です。人間は生きる為に呼吸をしています。呼吸の速い人、呼吸の遅い人と色々ですが仏教（ヨーガ）では呼吸を整える数息観と言う修行があります。呼吸を整える事により集中力を高めていき、人間は五感の神経から発せられる伝達により、脈拍が早くなったりします。この神経系が壊れ、正確に反応が伝わらなくなると「間」の消滅を招き、やがて脈拍が止まり、無息の状態、脳死、臨終となります。私達は規則正しく心身の健康を保ち、時計の針が止まるが如く静かに一生を終えたいものです。人間としての尊厳を保ちつつ。

二十四年五月一日

善壽界善入院油掛地藏尊